

石



長崎県立島原工業高等学校生徒会

第57号
2022年

石

長野県立馬場工業高等学校生徒会誌

第57号

2022年



校歌

作詞 宮崎 康平
作曲 古閑 裕而

一、白雲なびく 雲仙に
こたえて立てる 丸尾台
誇りもたかき 若人が
あしたの風に 胸を張り
鳴らす文化の あげの鐘
鳴らす文化の あげの鐘

二、はるかに阿蘇の 山脈を
のぞむ 潮路の 夕映えや
日暮城の 明け暮れに
泰西の夢 しのびつつ
みがく時代の 不羈の技
みがく時代の 不羈の技

三、野鳥の里の 学舎は
この花におう 春がすみ
来りて巣立つ 年毎の
理想に燃ゆる 若人が
ともす現世の 道標
ともす現世の 道標

「挑戦し続ける」



校長 山口 勇

この夏、57年振りに東京オリンピックが開催されました。世界規模の新型コロナウイルス感染による異例づくめのオリンピック。開催が1年延期され、それでも開催されるかどうか危ぶまれていました。大会は日本選手の目覚ましい活躍もあり、大いに盛り上がりました。その開会式では、各国から集まったアスリートたちの入場行進のBGMとして、「DQ」「FF」「モンハン」などの日本発のゲームのテーマ音楽19曲が流れ、世界中で大きな話題となりました。

「コロナ禍でのオリンピック開会式」と「ゲーム音楽」、一見ミスマッチにも感じるものですが、「オーブニング」「英雄」「災厄から救う」という意味をもち、マンガ風にデザインされたステージに迎えられた選手たちは物語の主人公であり、疾病によつて混乱したこの世に希望の光を灯す「勇者」になる、そんな演出となつていて、とても感動的なものとなりました。そして、行進の冒頭を飾ったのは、あの有名な「ドラゴンクエスト」の序曲・ロトのテーマでした。

皆さんは、この曲の作曲者が90歳の著名なゲーマーだということをご存知でしょうか。彼の名前は、「すぎやまこういち氏」です。すぎやまさんは、中学生の頃からクラシック音楽を独学で勉強しました。将来、音楽家になりたかった彼は、当然、音楽大学への進学を希望しますが、「音大に行くほどピアノが弾けなかった」ことから、泣く泣く音大受験を諦め、他の大学に入学しました。大学卒業後はテレビ局に入社し、ディレクターとして手腕を振るう一方で、作曲家としてヒット曲を量産しました。

そんな彼がドラクエと出会ったのは、フリーになって活動していた50代半ばのことです。20代の若者中心のドラクエ制作スタッフとは年齢的な隔たりもあり、当初ギクシャクしていたようですが、彼自身が筋金入りの無類のゲーム好きであったこともあり、次第に打ち解けていきました。ドラクエの世界観が「中世ヨーロッパのファンタジーテイストの騎士物語」であったことに加え、ゲームという特性上、何百回聴いても飽きない音が必要であったことから、彼は大好きな「クラシック音楽」をベースにして、35年で500曲以上に及ぶ楽曲をすべて一人で作っています。ついには、2016年に、「世界最高齢（満84歳292日）でゲーム音楽を作曲した作曲家」として、ギネスブック世界記録にも登録されました。

思えば、人生は、多くの課題や目標を抱えながら探求する、未知なる旅のようなものです。すぎやまさんは、ある対談で、「ゲームと違って、人生には決まった攻略法はありません。目の前の困難から逃げてばかりではダメです。ゲームも人生も、逃げたら経験値は上がりません。」と話していました。何でも新しいジャンルが好きで、常に新進気鋭の現役でありたいという「絶えず挑戦し続ける精神」は、生徒の皆さんの今後の手本となるものではないでしょうか。